

2018年「学校健診後治療調査」

# 報告書

長崎県保険医協会

# 長崎県保険医協会 2018年「学校健診後治療調査」報告書

【実施期間】2018年9月14日～9月30日

【対 象】長崎県内の小・中・高校、特別支援学校622校。

【方 法】アンケート用紙(A4版1枚)を郵送し、FAXまたは郵送で返信。

【回答数】181校(小学校101校、中学校40校、高校22校、特別支援学校18校)

【回答率】29.1%

## 【対象数及び回答数・回答率】

	対象数	回答数	回答率		対象数	回答数	回答率
小学校	333	101	30.3%	公立小学校	329	99	30.1%
				私立小学校	4	2	50.0%
中学校	184	40	21.2%	公立中学校	174	33	19.0%
				私立中学校	10	6	60.0%
高校	79	22	29.1%	公立高校	57	16	28.1%
				私立高校	22	7	31.8%
特別支援学校	26	18	69.2%				
全体の合計	622	181	29.1%				

# 結果

学校健診後治療アンケート調査を県内 622 の小中高および特別支援学校に対して行い、回答率は 29.1 %で以下の結果を得た。

## 眼科健診

要受診率平均 34.5 %で、要受診者のうち受診しなかった未受診率は平均 63.9 %と多く、受診者はほぼ小学校・特別支援学校 2 人に 1 人、中学校 3 人中 1 人、高校 5 人中 1 人と高学年になるほど少なかった。

黒板の字が見えず、ノートがとれない、時間がかかる、姿勢が悪くなる、席替えが出来ないなど学校生活に支障をきたした者が 7.2%いた。

## 耳鼻科健診

要受診率は 9.7 %、未受診率は 51.2 %で眼科健診と同様の傾向であった。

## 内科健診

要受診率は 4.2 %と少ないものの、未受診率は 66.4 %で、小中学校は約 2 人に 1 人に対し、高校は 10 人中 9 人と多くが受診しなかった。心電図検査では、要受診率平均 5.3 %で、未受診率平均 12.7 %と各学校とも約 9 割が受診。X 線検査の要受診率平均は 0.9 %、未受診率平均は 22.6 %だが、高校以外はすべて受診率 100 %であった。尿検査は要受診率平均 1.0 %で、未受診率は各学校 10 ~ 30 %で平均 22.6 %。

以上、内科健診で学校生活に支障をきたしたものは皆無であった。

## 歯科健診

要受診率は 36.7 %で、そのうち、歯科医院での治療が必要とされた生徒は、むし歯が要受診者の 57.7 %、歯肉炎が 7.5 %であった。未受診率の平均は 57.2 %であったが、小中高と進むにつれて未受診率は高くなり、高校においては 5 人に一人しか受診していないという結果であった。

小学校においては、口腔崩壊による咀嚼困難で給食時間が長くなる、うまく呑み込めないなどの支障を来している生徒も見受けられた。また、兄弟で口腔崩壊、養護教諭の再三の受診の勧めに応じないなどの口腔への認識が低い傾向がみられた。中学高校においては口腔崩壊による咀嚼困難を思わせる生徒は少なく、高校においてはクラブ活動等で学生も忙しいという要因も考えられる。

# まとめ

要受診率は歯科、眼科、耳鼻科、内科健診の順に少なくなり、要受診者の受診率は小中高と高学年になるほど低下する傾向にあった。心電図、X 線検査、尿検査に関しては、要受診率が何れも少ないものの、要受診者の受診率は約 80 ~ 90 %と高率であった。

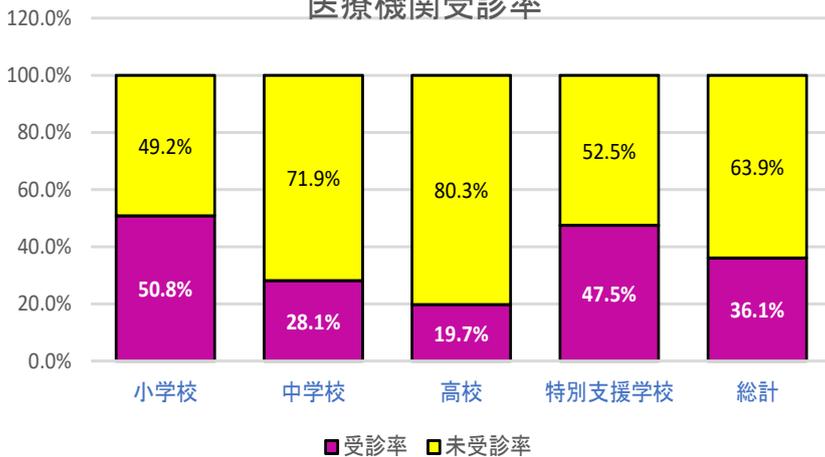
未受診の要因としては、健康に対する保護者や本人の理解不足が 60.8 %と多くを占め、経済的理由 34.3 %、共働き 29.8 %や一人親 17.1 %で時間的余裕がないなどあったが、離島など病院や専門医が近くにないなどの状況も浮き彫りになった。

# 眼科健診

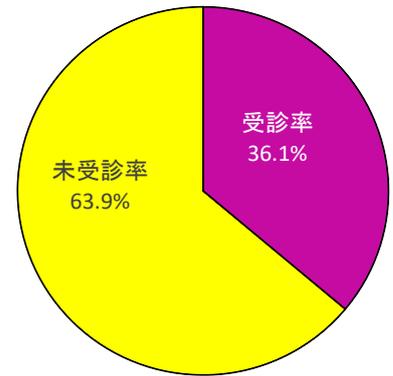
## ●児童・生徒数と要受診率、未受診率

	健診受診数	要受診数	要受診率	受診数	未受診率
小学校	16,395	4,687	28.6%	2,382	49.2%
中学校	6,736	2,822	41.9%	794	71.9%
高校	6,825	2,971	43.5%	586	80.3%
特別支援学校	813	141	17.3%	67	52.5%
	30,771	10,621	34.5%	3,829	63.9%

眼科健診「要受診者」  
医療機関受診率



眼科健診「要受診者」の  
受診率



## ●眼科健診（視力検査含む）で「要受診」となったにも関わらず未受診で、学校生活に支障をきたした子がいましたか？

	回答学校数	いた			いなかった		不明	
		学校数	%	人数	学校数	%	学校数	%
小学校	101	8	7.9%	20	79	78.2%	13	12.9%
中学校	39	3	7.7%	6	24	61.5%	12	30.8%
高校	23	1	4.3%	2	17	73.9%	5	21.7%
特別支援学校	18	1	5.6%	1	15	83.3%	1	5.6%
	181	13	7.2%	29	135	74.6%	31	17.1%

## 具体例

### <小学校>

- \* 黒板の字がよく見えず、ノートがとれない。
- \* 視力がDにもかかわらず未受診のため、何の活動においても近づいて物を見なければならなかったり、姿勢の悪さにつながっている。
- \* 黒板の字を無理に見ようとしてノートに書き写すため、時間がかかる。
- \* 眼球振盪で視力D・Dの児童。黒板の字が見えにくかったためノートがとれない。
- \* 黒板の字が見えないので、となりの子にノートを見せてもらっていた。
- \* 3年間(4年生から6年生まで)両眼Dの児童。人の眼鏡をとり、見つけられ、叱られました。その後も受診なく卒業した。
- \* 視力低下がさらにすすんだ
- \* 視力低下だが、眼科受診していないため、めがねもなく、最前列に席があるが、よく黒板の字が見えない。
- \* 席が固定されて、思うような席替えが出来ない。
- \* 黒板が見えにくいと言っていたが、座席を前にすることでノートがとれないことはなかった。
- \* 視力低下の子どもや他に配慮を要する子どもが多いため、席替えに苦慮することがある。
- \* 黒板の字が見えにくそうにしていた。席替えがつかず、前の方の席ばかりだった。

### <中学校>

- \* CやDなのにメガネ・コンタクトをせずに過ごす生徒が5～6名はいた（本人が気にしていない子もいた）。
- \* 細かい部分まで把握できてない。教科担任から報告ない。席を前方にて対応している。
- \* 視力低下を放置しているため、黒板の字が見えず、前の席を希望している。運動部活動におけるバスケットボールでシュートが入らない等の弊害がある。
- \* 視力低下を放置しているため、黒板の字が見えず、座席の配慮が必要。
- \* 黒板の字が見えにくそうな様子だが、本人に確認すると「支障はない」「困っていない」という生徒がいる。
- \* 黒板の字が見えず、頭痛がある。

### <高校>

- \* 不都合を感じていても受診をする事につながらない現状があります。（経済的な理由）
- \* 視力低下から物が見えづらい。

### <特別支援学校>

- \* 本校は盲学校で全児童生徒は定期的に眼科受診をしています。
- \* ホワイトボード(黒板)の文字が見えず、座席を配慮しなければならない生徒がいる。

参考：大阪府眼科医会ホームページより抜粋

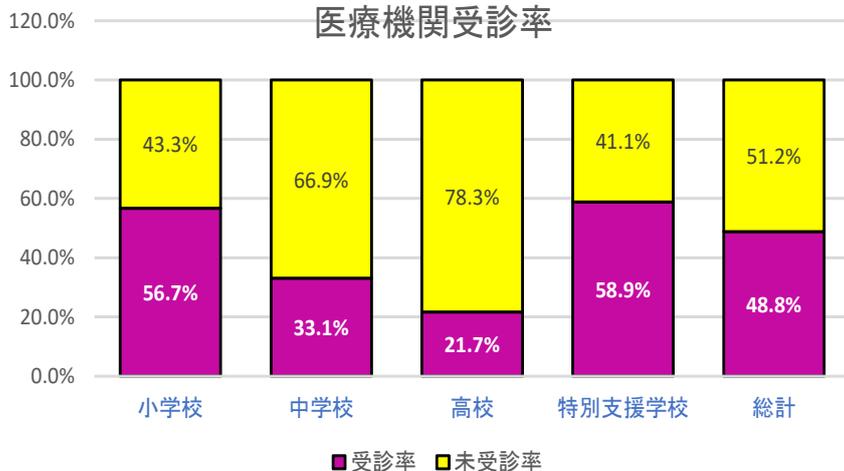
「A」は視力 1.0 以上に相当します。  
 「B」は視力 0.9 ～ 0.7 に相当し、学校生活にはほとんど支障のない見え方です。  
 「C」は視力 0.6 ～ 0.3 に相当し、教室での授業に多少の影響が見られるため何らかの対策を必要とします。  
 「D」は視力 0.2 以下で、教室の最前列でも黒板の字が見えにくいために早急な対策が必要です。  
 また「A」以外は医学上、正常な視力に相当せず、近視、乱視、遠視、その他の眼の病気が関わっていることもあるので、保護者には「受診勧告のお知らせ」が配られ、子供達ができるだけ眼科を受診できるように配慮されています。

## 耳鼻科健診

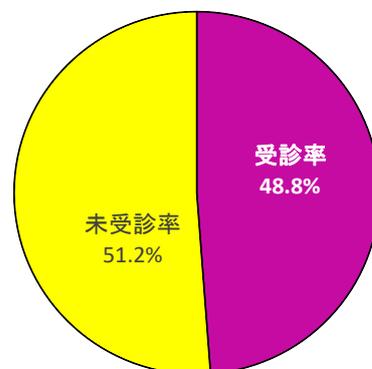
### ◆児童・生徒数と要受診率、未受診率

	健診受診数	要受診数	要受診率	受診数	未受診率
小学校	11,598	1,399	12.1%	793	43.3%
中学校	4,968	326	6.6%	108	66.9%
高校	4,248	258	6.1%	56	78.3%
特別支援学校	711	112	15.8%	66	41.1%
	21,525	2,095	9.7%	1,023	51.2%

耳鼻科健診「要受診者」  
医療機関受診率



耳鼻科健診「要受診者」の  
受診率



●耳鼻科健診（聴力検査含む）で「要受診」となったにも関わらず未受診で、学校生活に支障をきたした

## 子がいましたか？

	回答学校数	いた			いなかった		不明	
		学校数	%	人数	学校数	%	学校数	%
小学校	101	1	1.0%	1	94	93.1%	5	5.0%
中学校	39	0	0.0%	0	36	92.3%	2	5.1%
高校	23	0	0.0%	0	19	82.6%	2	8.7%
特別支援学校	18	0	0.0%	0	16	88.9%	2	11.1%
	181	1	0.6%	1	165	91.2%	11	6.1%

## 具体例

### <小学校>

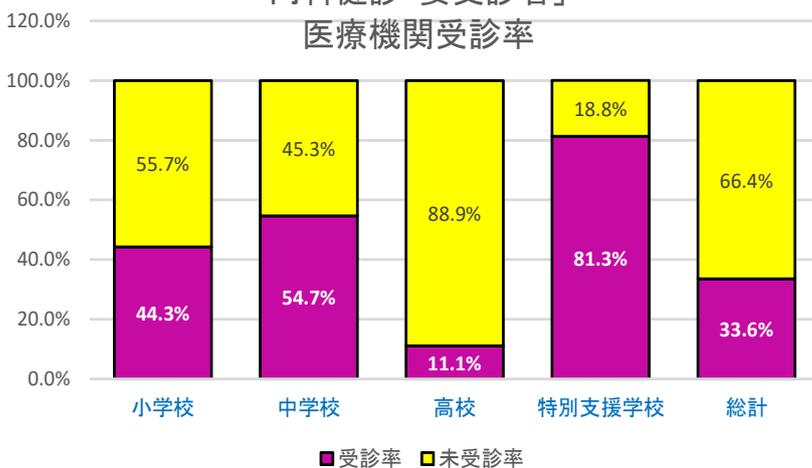
\*聴力検査で受診勧告してもなかなか受診されず、本人はよく聞こえない、聞きとりづらいため、授業中などイライラしたり、泣いたりすることがある。

## 内科健診

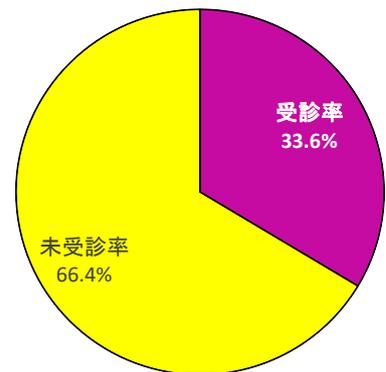
### ●児童・生徒数と要受診率、未受診率

	健診受診数	全体			四肢の状態 要受診数	受診数	未受診率
		要受診数	要受診率	要受診数			
小学校	16,499	627	3.8%	122	278	55.7%	
中学校	6,880	190	2.8%	51	104	45.3%	
高校	7,513	514	6.8%	35	57	88.9%	
特別支援学校	823	16	1.9%	3	13	18.8%	
	31,715	1,347	4.2%	211	452	66.4%	

内科健診「要受診者」  
医療機関受診率



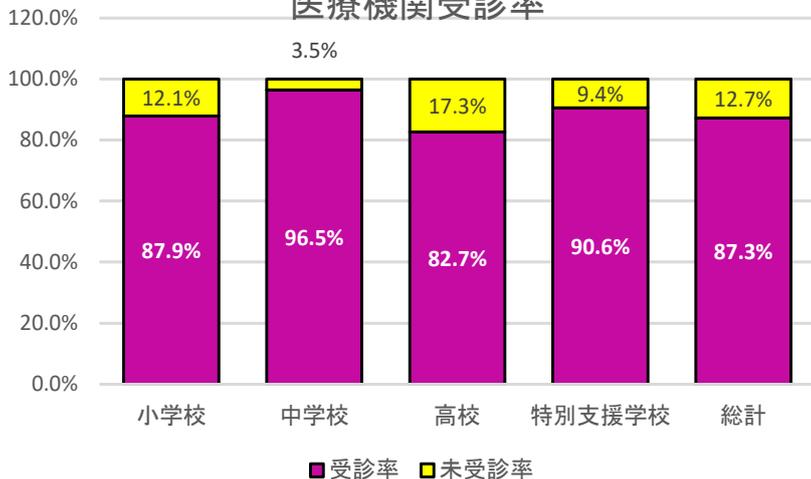
内科健診「要受診者」の  
受診率



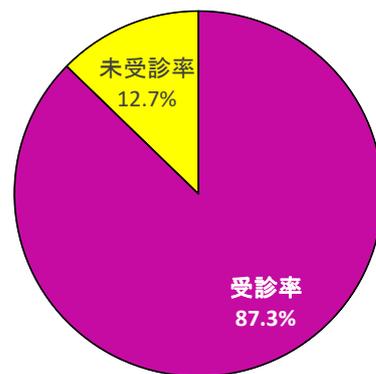
## ◆心電図検査

	健診受診数	要受診数	要受診率	受診数	未受診率
小学校	3,208	107	3.3%	94	12.1%
中学校	2,245	86	3.8%	83	3.5%
高校	2,659	220	8.3%	182	17.3%
特別支援学校	603	53	8.8%	48	9.4%
	8,715	466	5.3%	407	12.7%

心電図検査「要受診者」  
医療機関受診率



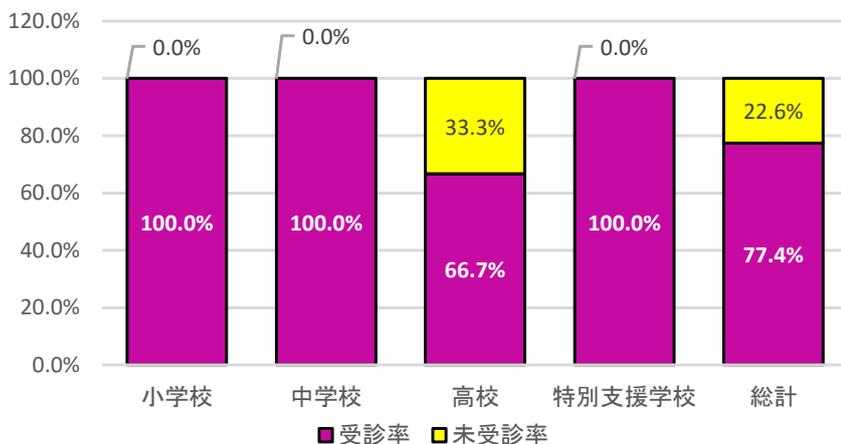
心電図検査「要受診者」の  
受診率



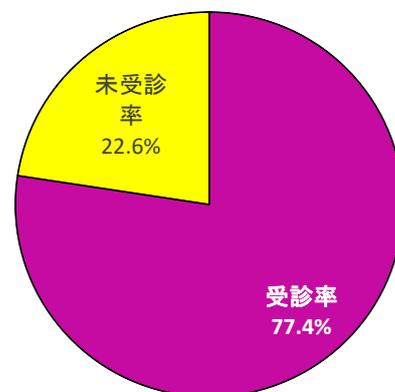
### ◆X線検査

	健診受診数	要受診数	要受診率	受診数	未受診率
小学校	0	1	0.0%	1	0.0%
中学校	573	2	0.3%	2	0.0%
高校	2,653	21	0.8%	14	33.3%
特別支援学校	191	7	3.7%	7	0.0%
	3,417	31	0.9%	24	22.6%

X線検査「要受診者」  
医療機関受診率

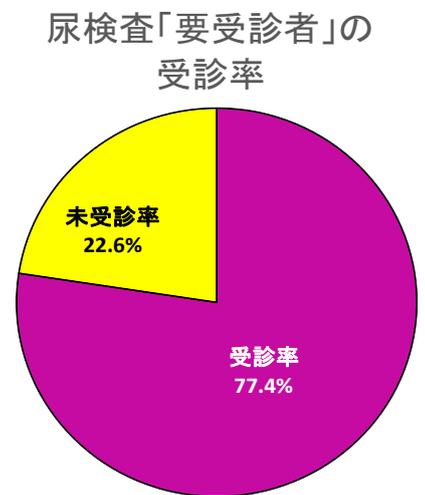
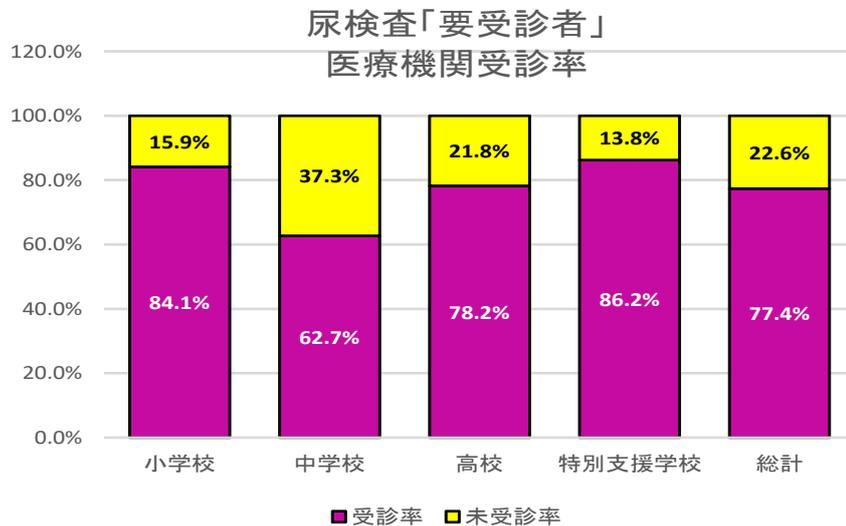


X線検査「要受診者」の  
受診率



### ◆尿検査

	健診受診数	要受診数	要受診率	受診数	未受診率
小学校	16,958	113	0.7%	95	15.9%
中学校	6,889	75	1.1%	47	37.3%
高校	7,749	101	1.3%	79	21.8%
特別支援学校	837	29	3.5%	25	13.8%
	32,433	318	1.0%	246	22.6%



●内科健診（心電図検査・X線検査・尿検査など含む）で「要受診」となったにも関わらず未受診で、学校生活に支障をきたした子がいましたか？

	回答学校数	いた			いなかった		不明	
		学校数	%	人数	学校数	%	学校数	%
小学校	101	0	0.0%	0	95	94.1%	3	3.0%
中学校	39	0	0.0%	0	37	94.9%	1	2.6%
高校	23	0	0.0%	0	20	87.0%	2	8.7%
特別支援学校	18	0	0.0%	0	17	94.4%	1	5.6%
	181	0	0.0%	0	169	93.4%	7	3.9%

## 具体例

### <小学校>

\*未受診はいたが、学校生活に支障なし。

\*尿検査 潜血3+で毎年受診勧告を行っていた児童1名。保護者に数回連絡するが、なかなか受診してもらえない。

### <高校>

\*尿検査でタンパク（++）の男子生徒がいました。5月に退学したので気になったままです。受診勧告書も出しましたが、経済的にも厳しく、受診しませんでした。中学校の時にも症状が出ていたので腎臓が悪くなっているのでは…と気がかりです。

## 歯科健診

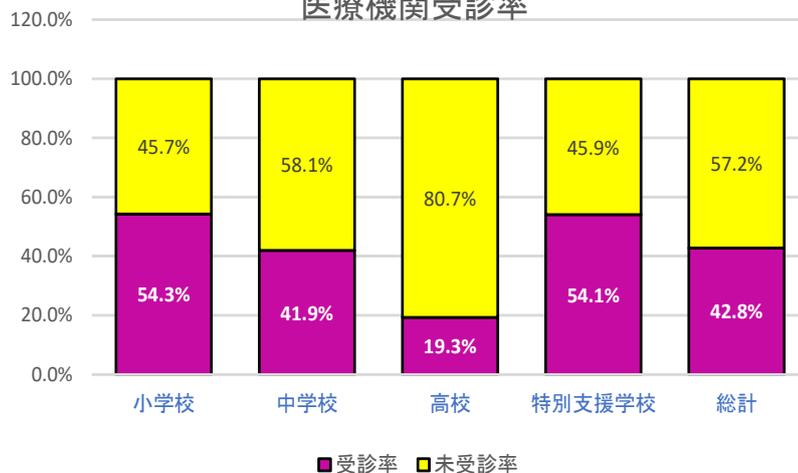
●児童・生徒数と要受診率、未受診率（2017年度）

	健診受診数	全体				受診数	未受診率
		要受診者		むし歯(C)	歯肉炎(G)		
		要受診数	要受診率	要受診数	要受診数		
小学校	16,852	6,430	38.2%	4,229	302	3,492	45.7%
中学校	6,846	2,328	34.0%	1,161	364	975	58.1%
高校	9,026	3,210	35.6%	1,528	226	619	80.7%
特別支援学校	801	333	41.6%	179	30	180	45.9%
	<b>33,525</b>	<b>12,301</b>	<b>36.7%</b>	<b>7,097</b>	<b>922</b>	<b>5,266</b>	<b>57.2%</b>

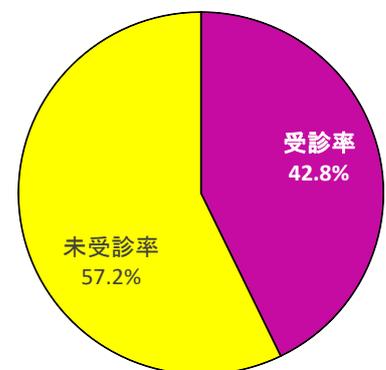
【参考：2016年度】 2017学校校歯科治療調査結果より

	健診受診数	要受診数	要受診率	受診数	未受診率
小学校	29,359	11,407	38.9%	6,030	47.1%
中学校	12,196	4,189	34.3%	1,567	62.6%
高校	17,433	5,698	32.7%	1,265	77.8%
特別支援学校	1,295	546	42.2%	227	58.4%
不明	6,520	2,863	43.9%	1,013	64.6%
<b>総計</b>	<b>66,803</b>	<b>24,703</b>	<b>37.0%</b>	<b>10,102</b>	<b>59.1%</b>

歯科健診「要受診者」  
医療機関受診率



歯科健診「要受診者」の  
受診率



●歯科健診で、口腔内が崩壊状態とみられる児童・生徒がいましたか？

	回答学校数	いた			いなかった		不明	
		学校数	%	人数	学校数	%	学校数	%
小学校	101	32	31.7%	50	68	67.3%	2	2.0%
中学校	39	5	12.8%	8	33	84.6%	1	2.6%
高校	23	7	30.4%	39	16	69.6%	1	4.3%
特別支援学校	18	2	11.1%	5	15	83.3%	1	5.6%
	<b>181</b>	<b>46</b>	<b>25.4%</b>	<b>102</b>	<b>132</b>	<b>72.9%</b>	<b>5</b>	<b>2.8%</b>

具体例

## <小学校>

- \*むしばのひどい子が1人いた。好き嫌いも多く、給食を食べるのが遅かった。永久歯がその後生えてずいぶん良くなりました。
- \*むし歯が10本以上ある(処置歯、未処置歯を含む)は4名います。すべて低学年で乳歯です。うち1名はすべて未処置歯でした。咀嚼が困難で、給食時間なかなか飲み込めず、咳込んだりしています。
- \*ひどい未処置歯が1本ある児童と、要注意乳歯がある児童がおり、昨年度歯科受診ができておらず、今年度の歯科検診でも同じ箇所が指摘された。保護者にも声かけをしているが、歯医者に行けていない状況。
- \*乳歯のむし歯がほとんどで、歯みがきの定着もよく身につけていない。むし歯が多いため咀嚼しづらく、食事の時間が長い。
- \*むし歯が10本以上ある。
- \*むし歯が10本以上ある。2人は兄弟である。保護者には何度も歯科受診をすすめるが何故か行かない。ネグレクト等はないようだが、健康への意識がうすいのか?不明です。
- \*むし歯が多数あり、歯肉もはれ、歯ブラシをあてるのも痛くてできなかった児童がいた。(親は仕上げ磨きもせず無関心であった)→給食後は養護教諭による仕上げ磨き。学校歯科医との連携。
- \*残存している乳歯のほとんどがむし歯の状態である。
- \*前歯が溶けており、咀嚼が困難なため、給食を食べるのが遅い。
- \*乳歯のう歯11本の児童1名。共働きの家庭のため、すぐには受診できなかったとのこと。
- \*乳歯の未処置歯が10本以上の児童が1年2年に各1名。ふたり共体的に小がらで、給食も小食。1年生は過保護タイプ。2年生は治療を怖がるが、保護者も就学援助を受け、治療させようとがんばっている。
- \*う歯が10本以上(乳歯)ある。顎関節、歯列、咬合ともに2で、正中がずれている。永久歯にう歯があるが、毎年医療券を渡しても受診しないため、かなり進行している。
- \*乳歯のむし歯が9本あった。奥歯を中心にむし歯になっており、歯冠部がほとんど残っていない歯もあった。学校でも歯の痛みを訴えることがあったが、咀嚼が困難な様子はなかった。昨年度中の病院受診はなかった。
- \*Aさん…むし歯が10本(すべて乳歯)あり、下の大白歯は根だけのものが2本ある。6本白歯が生えておらず、原因はむし歯の放置による咬合高径が無くなったためといわれた。Bくん…むし歯が10本(永久歯もあり)あり、歯列にも問題(下顎前突)があるため、上の歯が一部すり減って半分ほどの長さになっている。
- \*乳歯は全て(13本)むし歯だった。歯科受診を何度もすすめたが受診につながらなかった。永久歯にむし歯はみられず、咀嚼には問題は見られなかった。
- \*乳歯の未処置歯13本、給食時、痛みなどのため十分に噛むことができなかった。
- \*むし歯10本(乳歯9本、永久歯1本)
- \*歯科健診後に保護者(ひとり親家庭、保護者が子どもに無関心、障がいがある児童・生徒)と面談し、受診を依頼(小1)。口腔内崩壊状態(母親)。給食時に痛みが出て、食べることが苦痛の様子だった(乳歯・永久歯にむし歯)
- \*歯科検診の日に欠席する(2年間)。歯科医さんの所に検診を受けに行くようお願いするがいかない。
- \*保護者が前歯がない。子どもは医療券で治療をお願いしますと何回も連絡するが、続かない。子どもも前歯がなく、根しか残っていない。歯みがきの習慣がなく、昼休み保健室でみがくように指導するが、来室しない。むし歯が多数ある。
- \*学校では特に困っている様子はなかった。
- \*2年男子1名:乳歯のむし歯が10本あるが受診していない。
- \*乳歯むし歯10本。永久歯むし歯(疑)3~5本。口腔内の清掃状況はあまりよくない。低学年時、給食が少し遅くなることはあったが、それ以外学校生活で支障を感じることはなかった。
- \*給食を食べる時、かたいものでなくてもかむことが困難で、なかなか飲みこめない。量も少ししか食べきれない。
- \*①永久歯10本以上の未処置歯ありの6年生…2名。②乳歯すべて+6歳白歯4本すべて未処置歯の1年生…1名。③乳歯・永久歯合わせて10本以上の未処置歯のある3年生…1名。②と③は姉弟。

## <中学校>

- \*むし歯が10本以上ある生徒は12人いましたが、咀嚼が困難な状態ではありませんでした。
- \*10本以上むし歯が10本以上あり、歯みがきも不十分な様子がある。学校生活は良好だが、給食費の未納やひとり親家庭等、保護者の受診に対する意識の低さが感じられる。
- \*むし歯が10本以上ある。

## <高校>

- \*むし歯10本以上、歯の根しかない未処置歯が何本もあり、咀嚼が困難。保護者面談もして歯科受診・眼科受診を促しますが受診しないままです。歯肉炎(G)も続いており歯科校医の病院から衛生師の方が来て指導していただいても口腔内は不衛生なままです。
- \*むし歯が10本以上ある。
- \*Cが上7本下3本計10本、そのうち上の右4~左3までCのため、咀嚼がしにくいと思われる。本人は大丈夫と言う。
- \*う歯13本、G1年時より指導し、受診を促すが3年時まで受診なし。腹痛等を訴えあり。1年時は月2~3回程度保健室来室。学年上がるにつれて、来室頻度は減った。会話、食事等に支障はみられない。
- \*口臭が強い。よく体調不良を訴える。
- \*むし歯が10本以上ある生徒が2名いた。学校生活上の問題はなかった。
- \*男子2名、女子2名のうち、男子2名は運動部生でした。4名共に学校生活面で問題のない生徒達でしたが、治療に対しては消極的な態度でした。

## <特別支援学校>

\*むし歯が10本以上ある。歯の根しか残っていない未処置歯が何本もある。むし歯で大きな穴があいている歯がある(多数の未処置歯のうち)。

\*むし歯が10本以上ある生徒が一人、もう一人は20本以上の口腔崩壊であり、前歯まで歯の根元しか残っておらず、にっこり口を開けて笑うことすらためらう様子があった。

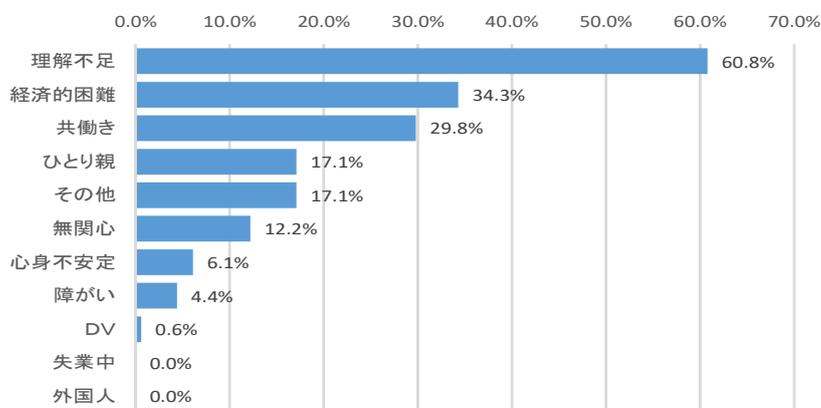
## 未受診の要因として関連が深いもの (複数回答)

	小学校		中学校		高校		特別支援学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
経済的困難	30	29.7%	17	43.6%	9	39.1%	6	33.3%	62	34.3%
ひとり親家庭	19	18.8%	4	10.0%	5	22.7%	3	16.7%	31	17.1%
共働き	38	37.6%	6	15.0%	3	13.6%	7	38.9%	54	29.8%
失業中	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保護者によるDV	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%
保護者が子に無関心	14	13.9%	6	15.0%	1	4.5%	1	5.6%	22	12.2%
心身不安定(保護者)	7	6.9%	3	7.7%	1	4.3%	0	0.0%	11	6.1%
子の健康への理解不足(保護者)	61	60.4%	24	61.5%	16	69.6%	9	50.0%	110	60.8%
障がいがある児童・生徒	1	1.0%	1	2.5%	0	0.0%	6	33.3%	8	4.4%
外国人(保護者)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他	11	10.9%	11	27.5%	7	31.8%	2	11.1%	31	17.1%

【参考:2016年度】 2017学校歯科治療調査結果より

	小学校 (46校)		中学校 (16校)		高校 (18校)		特別支援学校 (2校)		不明 (10校)		全体 (92校)	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
経済的困難	15	32.6%	4	25.0%	7	38.9%	2	100.0%	6	60.0%	34	37.0%
ひとり親	12	26.1%	4	25.0%	10	55.6%	0	0.0%	2	20.0%	28	30.4%
共働き	17	37.0%	7	43.8%	5	27.8%	1	50.0%	3	30.0%	33	35.9%
DV	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0.0%
無関心	11	23.9%	3	18.8%	1	5.6%	0	0.0%	0	0%	15	16.3%
心身不安定	8	17.4%	1	6.3%	0	0.0%	1	50.0%	1	10.0%	11	12.0%
理解不足	25	54.3%	9	56.3%	8	44.4%	1	50.0%	6	60.0%	49	53.3%
障がい	2	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%	1	10.0%	5	5.4%
外国人	2	4.3%	0	0.0%	1	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	3	3.3%
その他	10	21.7%	4	25.0%	4	22.2%	0	0.0%	1	10.0%	19	20.7%

### 未受診の要因



### 具体例

## <小学校>

- \*仕事が忙しいという理由で、なかなか病院に足を運んでもらえない。協力を得にくい。
- \*子どもが社会体育や習い事で忙しい。
- \*後回しにした結果、行かない。
- \*保護者の考え方による(まだ眼科は必要ないと判断)。
- \*特に歯科に関しては、“乳歯のむし歯は生えかわるので大丈夫”との認識がある。
- \*時間的余裕がない。歯科に関しては、本人が怖がって歯医者に行かない。
- \*検診報告に基づいて受診に協力ができているので問題がない。
- \*社会体育に熱心なあまり歯医者に通う時間がとれなかった。
- \*近隣に医療機関がない。
- \*離島のためすぐ近く(島内に)に病院がない。
- \*校区内に医療機関がない。

### <中学校>

- \*うっかり忘れ。
- \*部活動を優先、ひどく痛みがあるなど、日常生活に困り感がなければそのまま放置する例が多い。
- \*子どもへは親が言ってますが、ひとり親で育てている状況で(片方親トラックのり、週1回帰宅)、多忙とめんどくさがり未受診の状態。
- \*保護者、本人の治療の必要性に対する意識が低い(指導不足?)
- \*本人の意識の低さ。
- \*本人が部活動等で受診する時間がとれない。
- \*保護者が子どもを受診させる時間が合わない(保護者の休みと子どもの休みとあわない)
- \*検診報告に基づいて受診に協力ができているので問題がない。
- \*生徒が塾や部活で、受診する時間を確保するのが困難なため。
- \*専門医が近くにいない。病院が遠い。

### <高校>

- \*本人の健康への理解不足
- \*部活等で受診の時間が作れない。本人の自分の健康への理解不足。受診報告の忘れ。
- \*受診の時間をとることが難しいと生徒が感じていること。
- \*生徒本人の健康への理解不足。
- \*生徒自身の健康に対する意識の低さ。
- \*離島のため、専門科外来が島外にいかないと受診できない状況。
- \*二次離島であり、島内に専門医がいない。専門医を受診する際に、時間や交通費などの問題もあり、気軽に島外の病院を受診できない。

### <特別支援学校>

- \*尿検査は前年度に同じ項目で所見がでて、すでに受診をして結果がでていたため。
- \*本人や保護者過去に医療機関で嫌な経験をしていること。(医療機関従事者が)障がいのある人への理解が低いことも含めて)

## 本調査の感想、その他の事例

### <小学校>

- \*眼科受診を、B→Cになり、やっと2年後にした所、眼でなく脳の腫瘍だったことが2年前の児童にいました。昨年度は尿検査においてIgA腎症の発症を発見しました。精密には本当にぜひ行っていただきたい。
- \*医療券の申請がむしばのみで、COが対象でないので、COも対象になると治療に行ったり受診する子が増えると思う。
- \*病院数の多い地域では、まだ問題になっていないのかもしれませんが、長年にわたって学校医を受けて下さった先生方が御高齢になられ検診事態が実施困難という学校が今後増加していくのではないかと不安です。
- \*親が仕事や自分自身の事を優先するようになり、必要にせまられない限り(痛みを伴わない場合)、子どものう歯・視力・アレルギー疾患等の受診のための労力・時間を使わないような考えをもっている。(そういう大人が増えている)
- \*平日も親が仕事で忙しかったり、また子どもたちは土日もクラブをしていたりして、健康面に時間をとる余裕がなさそうです。
- \*よろしくお取り計らいください。
- \*検診直後、夏休み前、11月のいい歯の日など治療のおすすめを複数回行うことで病院受診者は増える。一方で症状が重い場合もなかなか受診のすすめに応じない家庭もある。家庭のいろいろな事情や考えもあるかと思うと強く受診をすすめるのは難しく感じている。
- \*視力に関しては、視力Dの子が受診し、眼科でもD判定であったにも関わらず、受診結果に“メガネ不要”と記載されていることが多い。そのため、黒板が見えず座席が前になる子どもが多く、座席の配慮が難しい学級もある。眼科受診はするが、メガネはかけさせない家庭もあり、保護者の健康への理解があるのかないのか判断に迷うことがある。
- \*内科検診では、アトピー・喘息・扁桃肥大等の所見がありますが、それぞれ家庭管理で、主治医の定期検診等を受けていますので、学校からは“所見のみおしらせ”ということですすめています。医療機関を受診した後、「受診結果のお知らせ」を回収するようにしていますが、受診しても学校に届かない場合もあり、実際にはもう少し数が増えると思います。

- \*学校には様々なところからアンケート調査が来ます。アンケートには基本的には任意なので、全てに回答はしていません。できれば市の教育委員会を通じて、各校に配布していただければ皆が確実に回答できるかと思います。(回答するべきものかどうか個人個人受けとり方が違いますので。)
- \*調査の依頼時期が2学期になってからなので、もし次年度も調査をされる予定であれば、夏季休業中をお願いします。
- \*極小規模校で養護教諭が未配置のため教頭が回答しています。
- \*昨年度のものとなると、4月から赴任した学校の様子の詳細が分かりづらいこともある。(2~6)
- \*本町は昨年度、耳鼻科・眼科検診が実施されなかったため0人となっております。申し訳ありません。
- \*要受診と指導された児童のうち、すでに診断を受けている、四肢の場合小学生なのでそこまで心配していない(例えば、腰の痛みを訴えるが、普段は遊んだりしている)又、受診結果が提出されない場合もあり、記入した人数より受診済は若干多いと思われる。
- \*調査後、このデータをどのように活用され、還元されているのか知りたいと思っています。現場では、子どもだけでなく保護者にも声をかけし毎年少しずつ治療率を上げています。100%をめざすためにも、学校へ還元していただけたら助かります。
- \*耳鼻科検診は島原市では1, 3, 5年、聴力検査は、1, 2, 3, 5年と検査対象学年が異なりますので、データは別々が出しやすいと思いましたが。眼科検診と視力検査も同様です。
- \*小学校の場合は、結核検診は①問診票②校医の内科検診で専門医検診にまわすようになっていきます。X線検診は受診していませんが、X線検診を結核検診ととらえるなら全員受診となります。その判断がつかかねましたので、X線「0」と記入し、専門医検診を受診したものの「1」と記入しています、「0」とするか「1」とするか、そちらでご判断ください。

### <中学校>

- \*医療券や子ども医療費助成の体制ができ上がっている中、未受診の子どもが減らないのは、やはり親の意識に因るところが大きいのかもしれません。学校としても、呼びかけや情報提供などを行っていますが、なかなか難しいです。
- \*う歯においては、準要保護・要保護生徒には、医療費の補助制度により医療券が発行できることにより、受診を勧めやすく実際治療率も上がってきている。しかし、視力においては、疾病ではないとの認識なのか視力結果カードを渡しても通院せずそのままカードを返却してくる家庭が多い。医療費の助成もないため強い受診勧告も難しい現実がある。
- \* (歯科治療の例)治療がすすんだ良かった例 治療がこわく、主治医の先生より、全身麻酔での治療が必要との連絡があり、大病院で治療を受けた生徒がいます。(保護生徒だったため医療券で治療をすすめた)主治医の先生の今回のような対応がなければ、この生徒は治療をうけないままになっていたかもしれません。このような(こわくて受診できない)ケースも他にもあるかもしれません。
- \*むし歯の治療について、他の項目よりも「早期治療をさせなければいけない」という意識が生徒・保護者共に低いように感じる。
- \*子ども自身が忙しくてなかなか病院に行けないということもありますが、保護者の意識の差をすごく感じます。特に視力は顕著にあらわれている気がします。(定期検診の必要性を感じていない)
- \*本校は生徒数も少なく、事後の指導等もやりやすい環境にあると思います。また、保護者の理解もあるので、スムーズに受診していただいています。ただ、受診に関しては医療費もかかるので、学校から勧めする際はかなり気をつけています。
- \*報告書を提出していない生徒もいるので、受診した人数は正確ではありません。
- \*今年度異動があり、前年度分を集計するのに時間がかかりました。養護教諭あてに届いたので、学校長あてに送付していただきたいです。
- \*前年度の調査はとても困ります。(理由)養護教諭が転勤していた場合、どこに書類があるのか?調べようにも健康診断票(3年分)は高校へ渡している。養護教諭が個人で作成している結果一覧表は公文書ではないので転勤の場合は処分することがある。結果の集計はあっても、治療・受診の記載がない!どこに記入されているかわからない項目ごとに1つ1つ数をかぞえて調査票に記入しているのが現状です。学校現場の事を考えてもらい、調査をするなら、何度内にもしてもらいたい。

### <高校>

- \*心電図や尿検査は100%の受診率であった。眼科や歯科は本人の困り感がない場合、受診につながりにくいようである。また、眼科・歯科は受信報告を忘れていたため学校が把握できていない件数もあると思われます。
- \*小学校1年の頃から未処置歯が12本あり、高校入学まで一度も治療を受けていない生徒がいる。義務の段階で何とか指導出来ないのか、毎年考えてしまう。(別紙資料添付)
- \*2. について視力低下放置の生徒は数名おり、授業等への支障がなかったとは言えませが、人数把握できていないため、不明としています。
- \*眼科検診、歯科検診の医療機関を受診した児童・生徒数は診断結果報告書を提出した生徒の数です。なので、受診しても報告書を提出していない生徒もいると考えられるので、正しい数とは限りません。申し訳ありません。
- \*保健室に書面で報告のあった者のみ、受診済としています。
- \*報告書を提出していない生徒もいるので、受診した人数は正確ではありません。

### <特別支援学校>

- \*健診後の治療勧告、ほけんだよりによる再三のお知らせ、面談等で担任を通じてのお願いなど学校のできる限りの対策を講じていますが、最終的には保護者の対応に委ねるしかないため、学校のできることの限界も感じてしまうのが現状です。
- \*今年度も未受診の児童生徒がいるため、事後指導の強化についてしっかりせねば!と思っていたところでした。ぜひ、今後調査内容を参考にさせていただきたいと思います。

# 学校健診後治療調査票

行政区（                      ）市・町                      記入日                      年    月    日

あてはまるところに○をしてください

公立小学校    ・    公立中学校    ・    公立高等学校    ・    公立特別支援学校  
 私立小学校    ・    私立中学校    ・    私立高等学校    ・

1. 昨年度（2017年度）、貴校で行った健診で、「健診を受けた児童・生徒数」と、その内「受診が必要と診断された児童・生徒数」「要受診と診断され医療機関を受診した児童・生徒数」を教えてください。

	健診を受けた 児童・生徒数	要受診と診断された 児童・生徒数	医療機関を受診した 児童・生徒数
眼科健診（視力検査含む）	人	人	人
耳鼻科健診（聴力検査含む）	人	人	人
内科健診（四肢の状態含む）	人	全体 うち 四肢の状態*	全体 人
心電図検査	人	人	人
X線検査	人	人	人
尿検査	人	人	人
歯科健診	人	全体 うち むし歯（C）* うち 歯肉炎（G）*	全体 人 人

\*不明の場合は空欄でかまいません

2. 昨年度（2017年度）の貴校の眼科健診（視力検査を含む）で、「要受診」となったにも関わらず未受診で、学校生活に支障をきたした子がいましたか？

例)「視力低下を放置しているため黒板の字が見えず、ノートがとれない」など

いた（              ）人                       いなかった                       不明

学校生活に支障をきたした具体例)

3. 昨年度（2017年度）の貴校の耳鼻科健診（聴力検査含む）で、要受診と判定されたにも関わらず未受診で、学校生活に支障をきたした子がいましたか？

例)「慢性中耳炎を放置し、聴力が著しく低下した結果、授業についていけなくなった」など

いた（              ）人                       いなかった                       不明

学校生活に支障をきたした具体例)

（裏面もご記入ください）



## 長崎県保険医協会

〒850-0056

長崎市恵美須町2-3 富国生命ビル2F

TEL 095-825-3829

FAX 095-825-3893